



消費者教育フェスタに参加して



物価高騰や円安など、経済に関わる話題が連日のようにテレビや新聞などで報道されている最中、「令和4年度消費者教育フェスタ」に参加させていただきました。宮崎教育長を始め、県内外の教職員のみならず各省庁の職員や保護者、弁護士など多岐にわたっての参加者がクリエート浜松にて一堂に会し、地域の消費者教育の連携・協働のあり方について共に考える貴重な機会となりました。

平田オリザ氏（劇作家・演出家・青年団主宰・芸術文化観光専門職大学学長）による基調講演「これからの学校教育・地域教育～多様な主体の対話から始まる価値創造～」の内容で印象的だったものを、一部紹介させていただきます。

(1) 消費者教育は「大げさ」と「うそ」の境界線を理解させること

日本の教育は「うそはダメ」と教える。しかし、「うそ」と「大げさ」の境界線は人によって違う。日本ではそれを教える授業がない。企業は物を売りたいから、広告には誇大表現が当然である。だからこそ、消費者教育において、その境目を見極める力を育てることが必要である。

(2) これからは「多様性」がさらに重要に

知識や情報はインターネット等で取得できる。だから、「何を」学ぶかではなく、「だれ」と学ぶかが大切なので「仲間を集める力」が重要となる。一人一人の身体的文化資産（センス、コミュニケーション能力、美的感覚、感性、味覚等）の格差が広がっている今、消費者教育も「どういう仲間をもっているか」が鍵となる。さらに、だまされないためには、本物（良いもの）にふれることが必要。そうすれば自ずと、偽物（悪いもの）を見極めることができる。

(3) コロナ禍をきっかけに学校本来の力を取り戻そう

学力の3要素「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」の中で、オンラインではできないこと＝学校でしかできないことが明白となった。それが「主体性・多様性・協働性」である。教員の言うことよりも友達に教えた経験の方が成績を向上させるという実証もある。友達との関わりを通して、学級みんなでやり遂げたという達成感や充足感を味わわせる経験を積ませてほしい。

この会の中で、北浜中学校の社会科の増井隆一教諭のすばらしい実践発表もありました。家庭科、社会科のみならず、様々な分野で外部のリソースを取り入れることが大切だと感じました。物価高騰だからこそ、真剣に消費者教育に取り組む良い機会と捉え、ピンチをチャンスに変えていきたいものです。

7、8部会の実践紹介

豊岡小5年「ソーイングはじめの一步」

【実践内容】

5年生の児童は、針で布を縫うことを初めて体験する子が多い。昨年度は動画や示範で説明してみたが、理解に時間のかかる児童にとっては、それでも難しかった。そこで、本年度はタブレットのカメラを使い、児童の実態に合わせたスピードで示範することにした。より見やすくするために食器棚に敷く滑り止めを布に、細いリボンを糸に見立てて用いた。針はボタン付けの拡大見本のものを使った。テレビ画面で見せている途中で聞こえる児童のつぶやきを拾いながら動きを止めたり、角度を変えて見せたりした。リボンは簡単にほどくことができるので、児童がつまづくことが予想される部分は、繰り返し見せるようにしたり、児童に練習用として使わせたりした。教師が机間指導している間は、既成の動画で確認しながら取り組むようにした。



いろいろな角度から見せながらの示範

【成果】

児童の反応を見ながら大きな画面で示範したことで、前年度よりも縫い方やボタンの付け方についてスムーズに理解できた児童が多かった。特にボタン付けでは、滑り止め自体に厚みがあるため、最後にボタンの根元に糸を巻き付ける必要性を実感して取り組むことができた。
(文責：中村 育子)

井伊谷小5・6年（発達支援学級）「食べて元気に ～ごはんのみそ汁をつくらう～」

本校には発達支援学級に在籍する5年生が7名、6年生が6名いる。普段の家庭科の授業は、それぞれの学年に分かれて、該当学年の内容を学習している。昨年度、6年生は調理実習を経験できなかった。今回、5・6年生でペアまたは3人組の班になり、なべを使ったご飯の炊き方を学び、その後、ポリ袋を使った炊飯とみそ汁づくりの調理実習を行った。みそ汁の実は栄養素を考えた中からそれぞれの班で選択させた。ポリ袋を使った炊飯方法はウェブサイト調べた。

【成果】

異学年のペアまたは3人組で、みそ汁の実を何にするか決めたり、手順を確認したりすることで調理に対する関心をより高めることができた。また、水の量を計る、材料を切るといった自分の役割を果たし、だしをとることや実を入れる順序を確かめることや火加減や時間を見ることなどは協力して進めることができ、「自分でおいしくつくることができた」という実感をもった。

ポリ袋を使った炊飯方法を知り、使う用具が少なく衛生的にできることに気づき、もしもの災害時にはやってみようという気持ちをもった子もいる。また、いろいろな料理や調理の仕方を検索して家庭で実践した子もいた。
(文責：松原えみ子)



<協力して調理・片付けする様子>

本年度も、「よりよい生活を自ら創り出す子供の育成」をテーマに研修を進めてきました。コロナ禍の中、制約もありましたが3年ぶりに第3回授業研修会を行うことができました。また、第1回、第2回では、小清水先生、山田先生の講話、実践発表、小中交流など、有意義な研修ができました。

今後も充実した家庭科の授業を実現していくことができる研修の場となるよう、役員一同取り組んでいきたいと思っております。1年間家庭科部の活動に御協力頂きありがとうございました。
(家庭科部役員一同)